

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2774002857		
法人名	株式会社 ビケンテクノ		
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム		
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号		
自己評価作成日	平成 24年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 11月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2774002857-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 9月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホーム(家)は駅や公園が近くにあり、ゆとりのある運営を行っています。一人ひとりの生活スタイルを尊重し、「心豊かに、支え合う場」として穏やかで安心した暮らしを築いています。
①手厚い人員配置(個別対応を重視) ②日々の食事・行事
③生活習慣を大事にしご入居者の必要とされる時間に人員配置
④毎朝屋外にてラジオ体操の実施。及び午後より屋内にて元気アップ体操を実施

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から数分のところにある、近隣に公園のある閑静な立地に恵まれたグループホームは、1階に保育園、2～4階がグループホームとなっています。エレベーターを降りると各フロアの玄関があり、明るく開放的な台所兼リビングが広がっています。ホームの理念「ありがとうと言いあえる日々の暮らし」「共に支えあい共感する」は、具体的なケアとして実践されています。管理者、職員のケアへの意識は高く、一人ひとりの利用者と向き合いコミュニケーションを図りながら、より良い関係を構築し、利用者一人ひとりのできることを引き出しています。画廊への絵画鑑賞、公園へ絵のスケッチ、カラオケ、ショッピングなど、個別支援を重視したケアに取り組んでいます。また、食事を日常の楽しみの一つとして位置付け、献立作りから、買物調理、片付けなど、日常の食事への取り組みは、他者との交流の場であり、役割を持ち、利用者のできることを引き出す場ともなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で住み慣れた環境の中で、個々人の生活習慣を大切にし、安心して生活が送れるよう努めている。又、玄関入口に掲示し、毎日合同申し送り時に、全員で唱和し理念を共有して実践に繋げている。	「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共に支えあい、喜び、ありがとう、といええる日々の暮らし」を理念として掲げています。理念は、利用者や家族、職員が見えるようにフロア内に掲示しています。管理者、職員は地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者一人ひとりの思いに寄りそい、地域の中でその人らしく暮らせるよう、個別ケアの実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、公園でラジオ体操を地域の方たちも参加され一緒に行い、又散歩で挨拶を交わす等、ふれあう機会も多く日常的に交流している。	利用者は毎朝近隣の公園に散歩に出かけ、公園でのラジオ体操を日課としています。公園で地域の方と触れ合う機会が増え、ドッグセラピーやハロウィンの子どもたちの仮装訪問が恒例となりました。また、利用者も月に4回、地域のふれあいサロンに出かけ、地域の一員として交流を深めています。運営推進会議で地域行事の情報も得られ、地域の各種行事への参加、ボランティアが来訪するなど、地域との交流が広がっています。地域へ向けて事業所の一部を開放し、サロンなどの開催を提案しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めて頂くため、中学校生徒の職場体験・ボランティアの受け入れや又、ホームの開放等、気軽に利用していただけるよう、運営推進会議を通し、呼びかけ理解を深め努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催のなかで、活動・取組状況等報告し、意見や助言を頂きサービスの質の向上に努めている。	年2回の運営推進会議は、この1年で3カ月に1回定例で開催するようになりました。会議には、利用者・家族、第三者委員として市職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、介護相談員などが参加しています。会議では、事業所からの状況報告を行い、参加者から他の事業所の取り組みや地域の行事等の情報提供や質問、アドバイスなどがあり、事業所運営に反映しています。議事録は詳細に記録に残しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との情報交換や、有効な場として位置づけ、必要な手続きや相談等、指導を受けている。	市が主催する年4回の事業所連絡会へ出席し、事業所間の連携を図っています。日常的には市の担当者との連絡や相談、連携を行い、運営推進会議への出席も得られています。事故が発生した場合には、迅速に事故報告ができる体制を整備しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や精神的拘束は一切行っていない。フロア入口のテンキーを解除し、他フロアを自由に行き来できるようにしている。1階玄関に関しては、安全面に考慮し、施錠している。 解放感のある工夫や、希望時に外出が出来るような人員体制を整えている。	身体拘束についての内部研修会を実施し、職員は、拘束とは何かについて理解を深めています。グループホームの1階玄関は、保育園の入口と共有のため、安全面から施錠しています。居住空間は、3階・4階であり、各フロア間は、エレベーターで自由に出入りができるようになっています。職員は、利用者が外へ出ていこうとする様子を察知した場合、止めることなく、どこまでも一緒につきあう対応を行っています。	1階玄関は施錠していますが、個別ケアの徹底を図りながら、利用者の安全や拘束感を与えないケアの取り組みをこころがけています。今後も、開錠に向けて更に検討されてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や防止マニュアルを熟知し、相手の立場に立った視点での虐待の理解を深め、日々の対話・対応のなかで自己判断のみとならないよ、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があれば参加し必要時活用できるよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し納得したうえで契約を交わしている。解約時は納得していただけるよう、医療、福祉機関等、連携し退居の為に必要な支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で入居者個々が不満や思い等、引き出せるようここでゆっくり関わる時間を作っている。ご意見箱を設置し、家族会や面会時、カンファレンス等参加していただき、気軽に意見や要望を聞かせて頂き運営に反映している。	居室の環境整備の時間を利用し、週に1回、職員が一人ひとりの利用者と一対一で向き合う時間を設けています。部屋の掃除やお茶を一緒に楽しみながら関係を構築し、一人ひとりの要望や意見を把握しています。「旅行に行きたい・・・」などの希望を聞き取り、個別外出の計画を立案しました。また、毎月写真を盛り込んだ「メルシーみどり通信」を発行し、クラブ活動や個別の外出、花火大会など行事の様子を伝えています。通信欄には翌月の催しの案内や個別の利用者の様子を記載し、ホームでの生活が伝わるように工夫しています。また、ケアマネジャーや職員は、家族の来訪時にはできるだけ声をかけるように心がけています。また、年に3回の家族会の再開やアンケートの実施など、家族の意見を聞く機会を設けています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアミーティング、カンファレンス等に、又職員の個別面談を年1回実施し、意見を聴く機会を設け、利用者のケアの質の向上に繋げている。管理者も夜勤や現場に入り利用者、職員の心身の状況を把握するようにしている。	施設長、管理者は、職員と個別の面談を行い、意見を聞く機会を設けています。会議やカンファレンスの場でも自由に発言できる雰囲気があり、活発に意見交換が行われています。管理者は、職員が利用者から聞き取った意見や取り組みを具現化できるように運営に反映しています。勤務異動や利用者の入居についても職員の意見を聞く体制ができています。この数年、職員の退職はほとんどない状況です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実力、勤務状況を把握し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、社内研修にて研修発表を行い、全職員が共有しスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や、地域ネットワークへ参加し、グループワークにて活動を通じ、サービスの質の向上へと取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい環境、ゆったりとしたじかんをつくり傾聴し、職員との信頼関係を築き上げ、本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の状況を理解し、意見・要望等聞かせて頂き、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より情報を収集し、状況を理解したうえで、必要性を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ないところを支援し家族の一員として日々共に支え合いながら生活をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を必要時家族に報告し、又、カンファレンス等に参加していただき意見、要望を伺い、協力を頂きながら、共に本人を支えていくより良い関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄大切にしてきた生活、背景等、十分に理解し、大切な人との交流と馴染みの場所へ出かける等の支援をしている。	以前、利用者と一緒に仕事をされていた方が、誕生日にプレゼントを持ってホームに来られたり、なじみの方や家族とも入居前と同じように外出したりしています。手紙の書けない方には職員が本人に聞き取り、代筆して友人とのつながりが途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の信頼とより良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、個々人の個性を把握し、必要時対応し共同生活が楽しいと思っていただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院先にお見舞いに行くことや、又家族様からお手紙や電話にて現況報告や、相談等あり支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聴き、意向に添えるよう、又意思疎通の困難な方も行動や表情を見逃すことなく思いを把握し、ゆっくり関わる時間をつくり支援している。	思いを聞き取るだけでなく、日々の関わりの中で表情や言葉、態度等の少しの変化を読みとり、個別の思いや希望をつかんでいます。情報は「気づきファイル」に記載し、情報を共有することで、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活歴・生活習慣等の情報を収集しセンター方式を活用しながら今迄の生活環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察するとともに、現状を把握し、個々に有する残存機能を発揮できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々利用者の気付きを記録し、都度、カンファレンスで話し合い現状に即し対応している。又3ヶ月のケアプラン見直しは、家族にもカンファレンスに参加していただき目標に対しての評価を行い、又、意見・要望を聞き介護計画を作成している。	「気付きファイル」に職員の気付き、問題点を記録して、その記録をもとにケアカンファレンスを開催しています。毎月モニタリング、評価を行い、次の課題へと繋ぎ、3ヵ月ごとに計画を見直しています。カンファレンスには家族が参加し、意見をもらいながら一緒に計画を変更しています。見直した計画に家族の納得が得られない場合には、再度家族とカンファレンスを行い、意見を聞いています。見直された計画書は職員全員で確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・個別チェック表・経過表で情報を共有し、ケアプランの評価を日々行い変化が生じた場合、気づきノートに記載し、随時カンファレンスを行いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、状態で都度、話し合い、必要とするサービスを情報提供し、柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動（ふれあいサロン、敬老会）への参加や保育園児との交流、図書館の利用等、又本人が得意とする作品を地域の作品展示会に出展するなど、心身の力を発揮しながら豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、利用者家族に主治医の意向を確認している。ホームの提携医との24時間連携、月2回の往診により利用者の健康管理を行っている。又、他に、専門医への受診支援も行っている。	入居後主治医の変更を無理に勧めることなく、入居までの利用者の受診状況を把握し、利用者・家族の希望する医療機関を受診しています。受診は、基本的に家族同行での対応となっていますが、医療機関との情報交換や必要に応じて支援しています。月1回の歯科医の往診や整骨院の往診もあり、利用者の希望に応じて支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が従事しており、状態変化や気づき等、連絡相談を行い24時間連携し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるよう又、入・退院時の利用者に関する情報交換や相談に医療機関と密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、入居当初に終末期の在り方等説明し、本人、家族の要望を確認している。主治医、家族、職員間で話し合い「出来る事、出来ない事」を見極め方針を共有し、支援し取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、入居時に家族や利用者へ「できること・できないこと」を説明しています。浴槽等のハード面から、入浴が困難になると他施設への紹介を行う場合もあります。家族や利用者の意向を把握し、医療との連携のもと、開設後4名の看取りを行いました。また、緊急時の対応や延命治療等についても話し合い、同意書での確認も進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修に参加し、急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し又、諸注意及びチェック表に基づきすべての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・消防訓練を消防署員の協力を得て夜間想定も含め利用者参加のもと実施している	消防署の協力を得ながら、年2回定期的に隣接施設との合同訓練を実施しています。訓練では夜間を想定し、利用者とともに避難経路等の確認をしています。近隣には、民家がなく自治会の協力を得にくい環境ですが、今後、地域住民を巻き込んだ訓練を検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入社時には、秘密保持に関する誓約書を交わし周知徹底している。利用者を尊重し尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。排泄介助に於いてもプライバシーを損ねないような言葉かけに配慮している。	個人情報保護やプライバシー保護について年間の研修計画に組み込み、内部研修を実施しています。できるだけ利用者が自己決定できるような声かけや場面作りを心がけています。排泄介助においても、他者に聞こえないような配慮や1日の生活の流れに沿った声かけを工夫しています。利用者一人ひとりが誇りを持ち、生活を送れるように、家族と相談しながら支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	個々の思いや希望が言えるような環境に配慮し、個々にあった対応と意思表示できない利用者に対し、言動や表情を観察し、くみ取り支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣及び生活リズムを把握し、ペースを大切に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ理美容の利用を支援し、タンス引き出し個々に表示し、身だしなみや洋服を自身で選べるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁づくり、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、又、利用者の好きな食べ物を聴きメニューに取り入れる等楽しみと自信に繋がるよう支援している。月一回の行事食や出前も楽しみとしている。	食事は日々の楽しみの一つとして位置付けています。利用者は職員と一緒にメニューから食材の購入、調理、盛り付けや配膳、片付けなど、できることに可能な範囲で関わっています。また、月に一度の出前ずしやバイキング方式での食事、バーベキューや行事食などを取り入れています。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら、楽しい雰囲気の中で食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録し、必要量を摂取するよう声かけや、好みの飲み物を提供する等工夫している。又食事の摂取量を把握し記録にて健康保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。月一回、歯科往診にて定期検診を行い歯科医の所見にて個々に指示を頂き本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄間隔を個々に把握し、プライバシーに配慮しつつトイレ誘導を行い支援している。紙パンツ使用の方も日中は布パンツを利用していただき快適に過ごして頂くよう努めている。	排泄表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。排泄パターンを把握することで誘導方法や時間を確認しながら、自立につながるよう支援をしています。また、昼夜のパッド類も排泄状況に応じて変更しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と水分摂取の把握及び適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境となっている。個々の希望や習慣に合わせて朝・夕の入浴を利用してもらっている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤で気分転換を図り、入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は週3回を基準としていますが、利用者の希望に応じて、対応しています。入浴をゆっくり楽しんでもらえるよう、入浴時間は一人ひとりの習慣に応じて対応しています。熱いお湯が好きな方、ぬるめが好きな方、こだわりの洗顔石鹸など、一人ひとりの好みに応じて対応しています。職員のシフトを工夫し、入眠の困難な利用者や眠前入浴を希望する利用者には、夜間入浴を実施しています。菖蒲湯やゆず湯など、季節を感じてもらえるような入浴も取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解し、日中は適度の運動や、散歩に出かけてもらい程よい疲れを感じて頂き、夜間安眠の確保を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書内容（相互作用・注意事項・副作用）を確認理解し、症状の変化を観察するよう努めている。 ※薬の飲み残しや誤薬はないか確認したうえで、与薬者がサインし記録で残している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされる事を見出し個々に役割とし自信と楽しみとなるよう又、趣味や楽しみとしてきたことを継続できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動に参加する等、積極的にいき、個々で事前に希望を伺いゆっくりと出かけられるよう個別にて外出を計画し実行している。交通機関を利用し買い物や行きつけのお店で外食等々、今迄楽しみとしていたことを継続出来る事の支援をしている。	近隣の公園でのラジオ体操、買い物、散歩などに毎日外出しています。また、地域のいきいきサロンに参加し、地域との交流を図っています。利用者の希望に応じた個別外出を積極的に支援しています。公園へのスケッチ、カラオケ、ショッピング、定期的に図書館へ本を借りに行く、100円ショップへの買い物、美術展の鑑賞、おやつを食べに出かけるなど、一人ひとりの希望に応じて対応しています。外出は利用者の楽しみに繋がっており、その様子が記録にも残されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自己管理出来る方には、少額程度は所持していただき、又小口（3千円程度）をホームで預かり管理し、買い物時は本人に財布を渡し支払いをしてもらっている。毎月出納帳をコピーしレシートを添付し家族に郵送している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される際、都度対応し、家族や友人へ手紙のやり取りが出来るよう又、手作りの便せんやはがきを作成し、通信を楽しめる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の環境や日ざし、音、室温等快適な生活空間であるよう心がけ又、季節を感じて頂くための装飾やリビングにソファを置きゆったりと落ち着いた雰囲気づくりに工夫している。	明るく開放的な食堂兼リビングの両サイドに居室があります。生活感あふれるオープンキッチンの台所は、食器棚や冷蔵庫など自宅での生活の延長として、食事作りができる環境が整っています。リビングには自由に過ごせるようにソファが置かれ、生け花や装飾などから季節を感じるができます。リビングには、アルバムや本が自由に取れるように並べてあり、ベランダの洗濯干しが視界に入ります。ベランダには自由に出られるようになっており、プランターには花が植えられています。2階フロアは、エレベーターを降りると茶道の道具が置いてあり、クラブ活動や行事のスペースとして活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に落ち着ける場として、廊下にベンチや椅子を設置し、個々が自由にくつろげる居場所を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等 今迄の生活環境に近づけ居心地良く過ごせるよう工夫している。	明るく開放的なフローリングの居室には、電動ベッド、洗面台が備えつてあります。自宅で使い慣れたタンスや飾り棚、仏壇、テレビ、テーブル、椅子などが自由に持ち込まれています。家族の写真や書などの作品、琴や本など思い出の品々や生活用品が持ち込まれています。夫婦で入居の場合、1室を寝室、1室をリビングとして使用する等、利用者の生活スタイルに合わせて柔軟な対応をしています。希望に応じて畳の対応も可能です。また、居室のドアは淡い色を基調とした色彩で、個々の部屋の色を分けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を掲げ、廊下、トイレ、ふろ場には手すりをつけ、危険な場所には、表示する等、混乱や障害がないように配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		